

今話題の「オープンダイアログ」とは、統合失調症なるものに対する方法としてフィンランドの過疎地域で生まれ、抗精神病薬や支援体制に対する概念を大きく変え、これまでの常識を覆えそうとしている方法であり、考え方です。そこには専門家の在り方を根底から見直させる発想があり、精神医療を超えて、広く大きく注目されて来ています。教育やコミュニティを変える可能性があるからです。

オープンダイアログ/リフレクティング研究会 臨床心理学会

オープンダイアログの基礎、

リフレクティング・プロセスを学ぶ

コーディネイタ/ファシリテータ: 功久(いさく)

しかし、それについて理解する多くの人は、これが日本の医療や福祉の中に入るには大きな困難があると言っています。制度上の抵抗はもちろんですが、人々とグループのなかにある無自覚の文化には、受け入れの障害となるところがありそうですし、それが入る経過のなかで重要なものを変えてしまうかもしれません。

創設者の一人であるヤーコ・セイックラはオープンダイアログとは“治療法というより political thing だ”と言っています。しかし、日本では「政治」と言い出したら、それだけで多くの人が引いてしまいます。これは一体なぜでしょう？ そこには、無自覚な文化的束縛とのつながりがある気がします。

★ こうしたことを心に留めておきながら、オープンダイアログの実際のなかで基軸として使われているリフレクティングを、まずは学びましょう。ナラティブ・アプローチの家族療法家であったノルウェーのトム・アンデルセンのリフレクティングは、家族援助の実践から生まれてきた方法です。技法の背後には近代の専門家支配のイデオロギーを超えんとする価値観や理念が含まれています。専門家の盲点の自覚ということ以上に、当事者主権の尊重ということですから。そして分からないことを大切にすることです。

★ 今回は、オープン・スペース・テクノロジーは入れずに、リフレクティングに焦点を当てます。いくつかのレクチャーもしたいと考えていますが、少しでも実際に試みながらリフレクティング・プロセスを学んで行きたいと思えます。全員参加のワークショップですが、オープンダイアログを全く知らない人も、リフレクティングがどういうことなのかわからない人も参加できるようにします。ただし、きれいにまとめあげることはしません。

時：2017年4月8日 10時～17時半 所：立命館大学衣笠キャンパス 創思館4階

参加費：4000円（臨床心理学会会員 2000円）通常学生 2000円 社会人学生/院生 2500円

予めの申込みが必ず必要です。問い合わせと申し込み：nonisac@yk.commufa.jp